

平成 22 年 5 月 17 日現在

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2007 ～ 2010

課題番号：19330028

研究課題名(和文) 帝国モデルと主権国家モデルの理論的-歴史的比較考察：超国家的連邦制の学際的研究

研究課題名(英文) Theoretical-historical comparative study of the empire-model and the sovereign state-model : interdisciplinary research of the supranational federalism

研究代表者 権左 武志 (GONZA TAKESHI)

北海道大学・大学院公共政策学連携研究部・教授

研究者番号：50215513

研究代表者の専門分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・政治学

キーワード：連邦制、帝国、主権国家、ヘーゲル、ヴェーバー、ギールケ、ヴァイマル

1. 研究計画の概要

本研究では、重層的な意思決定システムを取る帝国モデルと、最終決定主体が一元的に明確化した主権国家モデルという二つのモデルを理念型として設定する。そして、中世から近世を経て、近代・現代に至るドイツ史の中で、それぞれのモメントがいかなる組合せで現れるか、いかに両者の結合が変遷していくかを理論的-歴史的に比較考察し、主権国家中心の見方と異なる新たなヨーロッパ史理解、更に超国家的連邦秩序の解明に資することを研究課題とする。

2. 研究の進捗状況

(1)中世は、ルポルド・フォン・ベーベンブルクを中心として14世紀帝国制論を解明する一方で、15世紀帝国国制の特徴と変化を探究した。

(2)近世は、ヴェストファーレン条約のうちオスナブリュック条約とミュンヘン条約を分析し、両条約の重複部分と相違部分を交渉プロセスに即して解明した。

(3)近代は、ヘーゲル歴史哲学講義の未公開資料を素材として帝国崩壊後の主権国家創立が世俗化の課題に対し持った意義を探究した。またギールケ、ラーバントを中心として第二帝政期の連邦国家論を解明し、これと比較しつつプロイス国家論を分析した。

(4)現代は、ヴェーバーとプロイスを中心としてヴァイマル共和国制成立期の連邦制論を一次資料に即して解明した。また第二帝政期・ヴァイマル期の連邦国家論がヨーロッパ統合の現代的議論に対し持つ意味を考察した。

研究方法として、中世・近代・現代の各時

期につき、在外研究による資料収集と海外研究者との交流、研究成果の学会報告を積極的に進めた。また日本ヘーゲル学会と協力して国際シンポジウムを開催し、研究成果を欧語で公表するとともに、アンゲールン教授(バーゼル大学)を招聘し、東大の関連社会科学研究会と共同で研究会を開催した。

3. 現在までの達成度：

②おおむね順調に進展している。

理由：(1)中世及び(2)近世は、ほぼ順調に研究が進んでおり、(3)近代の帝国崩壊期も成果の公表まで進んでいる。これに対し、連携研究者が昨夏より在外研究に出かけたため、歴史法学派や第二帝政創立期の研究が立ち遅れている。(4)現代は、ヴァイマル創立期につき研究成果の公表が進んでおり、ヴァイマル末期も現在研究が着手されている。

4. 今後の研究の推進方策

第二帝政創立期の研究を補強するため、この時期の専門家ヴァイヒライン教授を本年度に招聘する予定である。またヴァイマル末期の研究を推進するため、在外研究を再度予定している。本年度中には各時期の最終成果を報告し、研究のとりまとめを行う予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 27 件)

①今野元、マックス・ヴェーバーとフーコー・プロイス-ワイマル共和国制における

連邦制問題を中心として、『政治思想研究』、
10巻、査読有、2010年、241-27
1頁

②田口正樹、中世後期の神聖ローマ帝国（ド
イツ）における諸侯間紛争と王権、『西洋史
研究』、37巻、査読有、2008年、21
0-221頁

〔学会発表〕（計11件）

①林知更、日本憲法学はEU憲法論から何を
学べるか、比較法学会第72回総会、2009年
6月7日、神奈川大学

②GONZA, Takeshi, Europäische Neuzeit
als Säkularisationsbewegung
-Realisierungs- prozess der menschlichen
Freiheit und ihre Begründung in den
Vorlesungen über die
Geschichtsphilosophie 1830/31, Japanische
Hegel-Gesellschaft, Internationales
Symposium, 6. 3. 2009, Komazawa
University

〔図書〕（計10件）

①権左武志、『ヘーゲルにおける理性・国家・
歴史』、岩波書店、2010年、393頁

②遠藤泰弘（共著）、オットー・ギールケと
フーコー・プロイスー主権概念をめぐる対立
とその位相、『法制史学会60周年記念若手
論文集 法の流通』、慈学社、2009年、
697-720頁